

拠点運営での取組報告

〈事業報告〉

よりなん 2023.11.29 地域とつながる協働交流会

- 総来場者数 45名
- 福祉分野の支援活動を行っている団体や事業者等によるノウハウ共有のための事例発表、およびマッチングのための交流会を開催しました。
- 「様々な活動団体とつながることができた」、「他団体の活動を知るきっかけとなった」とのアンケート回答が多数あり、異業種の団体が参加したことで普段交流できない団体とつながるきっかけを提供できました。
- NPO法人こえもじの協力のもと、音声認識による文字表示をスクリーンに投影しました。文字表示を行うことで聴覚障がい者や耳の聞こえに不安な方にも安心して講座に参加していただくことができました。



悠紀の里 2023.10.15 ゆきファミリーパーク

- 総来場者数 650名
- 子育て支援団体と協働して、子育て世代向けのイベントを開催。企画・運営を通じて子育て支援に係わる団体の相互理解の向上とネットワーク強化を図りました。
- 団体間の交流の機会をたくさん設けることで、団体同士の相互理解を深め、情報共有や協働につなげるためのネットワークを強化することができました。
- 今年度は未就園児だけでなく、小学生まで考慮したプログラムにしたり、ミニステージを加えることで、来場者に大いに楽しんでもらうことができました。また、新たに地域の障がい者支援のNPO法人にも出展してもらい、活動の場も提供することができました。



まち育て推進チーム Pick UP!

〈イベントレポート〉

総代会連絡協議会研修

2024年1月12日(金)に開催された総代会連絡協議会研修(学区総代会長向け)にて、講師、ファシリテーターを務めました。研修前半では、事前に全総代会に実施したアンケート結果をもとに、これからの町内会のありかたについて他市の事例を交えながら、りた・深田(拠点運営統括責任者)が講義をしました。後半では、各グループに1名ずつ配った職員をファシリテーターとして配置し、「担い手の確保・育成を増やす方策」「町内活動に対する関心を高める方策」という課題に対して、意見交換を行いました。終了後のアンケートでは高い満足度を得ることができました。



お問合せ	よりなん	59-3600	むらさきかん	66-3066	市民活動センター	23-3114
なごみん	やはぎかん	33-3665	悠紀の里	57-5050	まち育て推進チーム	23-2888

まちのミカタ

Litaracy

2024.03 vol.126

発行・編集

特定非営利活動法人 岡崎まち育てセンター・Lita

〒444-0031 愛知県岡崎市梅園町3丁目6-6
TEL(0564)23-2888 / FAX(0564)23-2898
http://www.okazaki-lita.com/
https://www.facebook.com/okazaki.lita/

配布

岡崎市図書館交流プラザ・Libra / 岡崎市内の地域交流センター
会員宛へ郵送 等 ※会員登録をご希望の方は左記までご連絡ください。

配布協力

岡崎市役所各支所 / 岡崎市各市民センター / シビックセンター / FMおがさき / 杉くんの駄菓子屋 / 松應寺 / cafeくらがり

まちのミカタ

Litaracy ーりたらしいー

126

2024年3月



特集 カーボンニュートラル 人材育成事業、スタート!

岡崎市は、2030年に市域の温室効果ガス排出量(以下、「CO2排出量」)の50%削減(2013年度比)、2050年にはCO2排出量実質ゼロ(カーボンニュートラル)の達成を目指しています。2022年11月には、環境省よりカーボンニュートラルのモデルとなる「脱炭素先行地域」に選定され、公民が丸となった脱炭素化の取組に力が注がれています。

そうした中、環境問題に関する知識だけでなく、カーボンニュートラルに向けた行動や思考を身に着け、実践していく人

材の育成が必要不可欠です。そこで、りたは小中学生を対象とした体験型の環境学習プログラムの開発を、岡崎市の環境コンサルタント・グリーンフロント研究所(株)と協働で取り組んでいます(発注元:岡崎市ゼロカーボンシティ推進課)。

今号では、岡崎市「高校生まちづくりプロジェクト」の協力を得て、現在企画中の体験型講座のプロトタイプとして試験的に行った「～水・ファッションから考える～こうすればいけるかも?!を見つけるワークショップ」の実施内容をお伝えします。

カーボンニュートラルの基礎知識

●地球温暖化が進むとどうなるの？

岡崎市の気温は40年で1℃以上上がっており(5年移動平均)、このまま地球温暖化が進むと、真夏日・熱帯夜が続いて熱中症での死者増加や、風速65mを超える暴風・大雨の発生で都市機能が麻痺するなど、様々な問題が想定されます。

参考 「2050年の天気予報」

世界気象機関(WMO) | YouTubeより

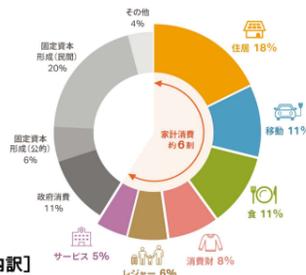


●なぜ、水とファッション？

CO₂排出量の割合が高いのは「住居」「移動」ですが、今回のワークショップでは、それらに次いで割合が高く、世代や性別に関わらず行動を変えやすい「食」と「消費財」から、より身近なテーマとして「水」と「ファッション」に着目しました。岡崎市の水道水は、高い割合で市内の浄水場から配水していること、また、繊維リサイクル(反毛)産業が発達していることから、より高い効果が期待できます。

●カーボンニュートラルとは？

温室効果ガスの排出を実質的にゼロにすること。排出せざるえなかった分については、同じ量を森などで吸収することで帳消し(それを「ニュートラル」と呼ぶ)を目指します。



【日本のCO2排出の内訳】 出典：南斉規介(2019)「産業連関表による環境負荷原単位データブック」より

体験型プログラム

水編

飲料水を選ぶ基準は、味・値段・入手のしやすさなどが考えられますが、その中にCO₂排出量(脱炭素にどれだけ資するか)という基準を加えるべく、水道水、国産ミネラルウォーター、外国産ミネラルウォーターを飲み比べたり、それぞれの二酸化炭素排出量の計算方法の考え方や実際の排出量を学びました。



プログラム後半では、水だけでなく、1日に摂取する飲料からCO₂排出量を計測。その結果をもとに、岡崎市の目標である、CO₂50%削減に向けて、自分でできるアクションを考えることで、参加者の行動変容を促しました。

ファッション編

華やかなファッションの世界。しかし、ファッション業界のCO₂排出量は、航空業界と海運業界を合わせたそれよりも多いと言われています。そこで、参加者の皆さんに、家にある着ていない服＝「たんすの肥やし」から、衣服の選び方・扱い方によるCO₂排出への影響を学びました。

そして、ファッションに対して自分たちができるアクションを「レビュー」「リユース」「リフューズ」「リペア」「リサイクル」という『5つのR(5R)』に振り分けて意見交換をしました。後半は、実際に自分のたんすの肥やしとなっている洋服の取扱いを5Rに振り分けることで、CO₂排出量をどのくらい減らせるのかを計測し、参加者全体でどの程度削減できるかをシミュレーションしました。



●担当より～

今回作成した体験型プログラムは、今後、「水」編を小学校、「ファッション」編を中学校を中心に展開することを予定しています。プログラム体験希望をされる場合は、りた、岡崎市ゼロカーボンシティ推進課までお問い合わせください。

地域交流センターにて、ワークショップ実施内容をまとめたパネル展示を実施しています。ぜひご覧ください。 日程等、詳細はこちら ▶▶



むらさきかんIT活用研修

●業務負担を減らして団体の活動を充実させよう！

業務の負担を軽減して本来の市民活動に充てる時間を確保するために団体内にITを導入する方法を学ぶ「IT活用研修」を1月20日(土)に行いました(全2回の研修計画のうちの1回目)。

多忙な現代社会では、積極的に役員を引き受けてくれる保護者がおらず「役員の引き受け手がない」という慢性的な問題を抱えているPTA。東海中学校PTA会長の佐藤さんからはGoogleFormsやグループLINEを活用して、活動の効率化と役員の負担軽減の試みをした事例の紹介をしていただきました。

さらに、リズムに乗りながら体を動かす活動を未就園児から高齢者を対象に行っている岡崎市健康体操連盟の後藤さんからは、会への申し込みや参加者からの問合せをスムーズにするLINE公式アカウントの活用方法の紹介などをいただきました。

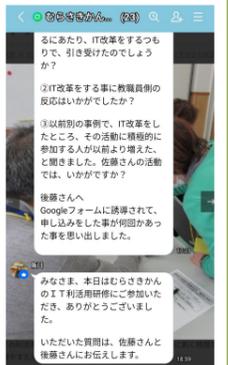
人的資源に限られた組織の中での事務負担の軽減や効率化に特化したIT活用方法と、広くオープンな関係性の中でのやり取り等に向いているIT活用方法は異なります。それぞれの団体の状況にあったサービスや活用方法を紹介していただき、様々な立場の方に参考になる研修を行う事が出来ました。

りた's Eye

事例紹介の後の質問が多数あり、IT導入に対する参加者の関心が高まっているのを感じました。IT活用というと難しく考えてしまいますが、最初は出来そうな事から始めてみて、徐々に新しい事にチャレンジしてみてもどうでしょうか？団体メンバーへの共有も大切ですね。むらさきかんでは引き続き、来年度も市民活動団体のITサポートが出来る研修を行う予定です。ぜひ、ご参加ください！



▲「安心なサービスの見分け方は？」 「QRコードの作り方は？」など、具体的な質問も。



▲個人ワークでは、自団体に取り入れたいIT活用を整理しました。また、オープンチャットを利用し、リアルタイムでの質問も受け付けました。

りた職員の思いを伝える！

コラム ~lita column~

いざという時の救命講習



突然のケガや病気になった場合に家庭や職場でできる手当てのことを「応急手当」といいます。医療機関に行くまでに応急手当を行い、ケガや病気の悪化を防ぐことでその人の社会復帰に導きます。119番通報後、救急車が現場に到着するまでに全国平均で約9分かかります。その間に何もしなければ助かる命も助かりません。

私は、消防署で普通救命講習、上級救命講習、応急手当普及員講習を学びました。その経験を活かして、センタースタッフや地域の女性に救命講習を行っています。ひとりでも多くの方に、心肺蘇生の手順やAEDの操作方法を知ってもらうことで、いざという時に役立ててほしいと思っています。

皆さんも、救命講習を受講したい場合は最寄りの消防署にお問い合わせください。



石田浩美(よりなんセンター長)

矢作町在住。2008年11月にりた入社。よりなん、やはぎかんを経て、現在はよりなんにて勤務。現在は、マンホールカード集めに邁進中！

